



# 心に残る芝居届けたい

玉野高演劇部が11月13、14日に高梁市で開かれる「県高校総合文化祭演劇部門・県高校演劇発表会」に出場する。県大会への出場は3年連続34回目。部員たちは「違和感のないリアルな演技で見る人の心に残る芝居を届けたい」と日々の練習に励んでいる。（矢吹喜一朗）

## 玉野高演劇部 来月、県総文祭出場

演目は高校の体育祭が舞台の「RUNNER」。義足の生徒がリレーに出場することや応援団の出番のことを巡り、混乱する執行部など高校生ならではの人間模様を描く。

指導する寺岡俊之教諭（44）は「新型コロナウイルスの影響で発表する場が少なく、経験不足が心配だったが、順調にレベルは向上している」と期待を寄せる。

エンディング場面の練習では、寺岡教諭が「もっと観客席の方を向いて声を出して」「この動作はもっとゆっくり」など、舞台への登場やせりふの

## 全国目標 練習励む

### 舞台 練習励む

タイミングなど細部まで指導。会場のステーションを確認して、照明の当たる角度を考えながら部員同士で意見を出し合う場面もあった。副部長の2年正木翔大さん（17）は「間の取り方やせりふの抑揚など、役者一人一人のレベルを上げていきたいといけない」と課題を挙げる。

演劇部は県大会で一昨年は4位、昨年は3位で中国大会に進出した。部長の2年樫山悠理さん（17）は「昨年を超える全国大会出場が目標。自分たちも演技を楽しんで、見ている人も明るくなれる芝居をしたい」と意気込んでいる。

県大会は地区大会を突破した11校が出場し、上位2校が中国大会に進む。

（C）山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。

本番に向けて細かな動作まで確認しながら練習に励む玉野高演劇部員ら